アントレプレナーシップ教育を学校で立ち上げる際の参考プログラム

（小・中・高校における指導補助資料）

早稲田大学　アントレプレナーシップセンター

■ 本資料の目的 ■　本資料は、小・中学生を対象とした普及・導入のプログラム、それに用いるワークブックの活用方法を詳細に解説しています。小・中学校はもとより、高校の教員の方々に、学校でのアントレプレナーシップ教育導入の参考にしていただければと思います。

アントレプレナーシップ教育とは

アントレプレナーシップとは、「様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神」※です。そして、アントレプレナーシップ教育は、自ら課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探求することができる知識・能力・態度を身につける教育です。起業家を育成するためだけのビジネス教育ではありません。そのため、誰にとっても有用な教育だと考えられます。※出典：文部科学省　アントレプレナーシップオフィシャルサイト
本資料のなかで紹介する教材は、便宜上、会社づくりに焦点をあてていますが、会社以外の組織やプログラムを考える際にも有用と考えています。

アントレプレナーシップは「起業」のためだけの教育ではない

• アントレプレナーシップは学ぶことができる資質

• どのようなキャリアにも必要な「生きる力」

「生きる力」とは、 2008年に文部科学省が小・中学校の学習指導要領で掲げた理念で、知・徳・体のバランスのとれた力の総称と定義されています。出典：文部科学省「平成20年・21年 小・中学校学習指導要領」
2020年の改定版では、より具体的に「生きる力」を発展させて記載しています。
この「生きる力」は、広義にはIQなどの数字では測れない「非認知能力」と捉えることができます。つまり、どのような状況に置かれてもやり抜く力や失敗を恐れずにチャレンジするマインドなどに代表されるものだと捉えています。

• 文部科学省もアントレプレナーシップ教育を推奨

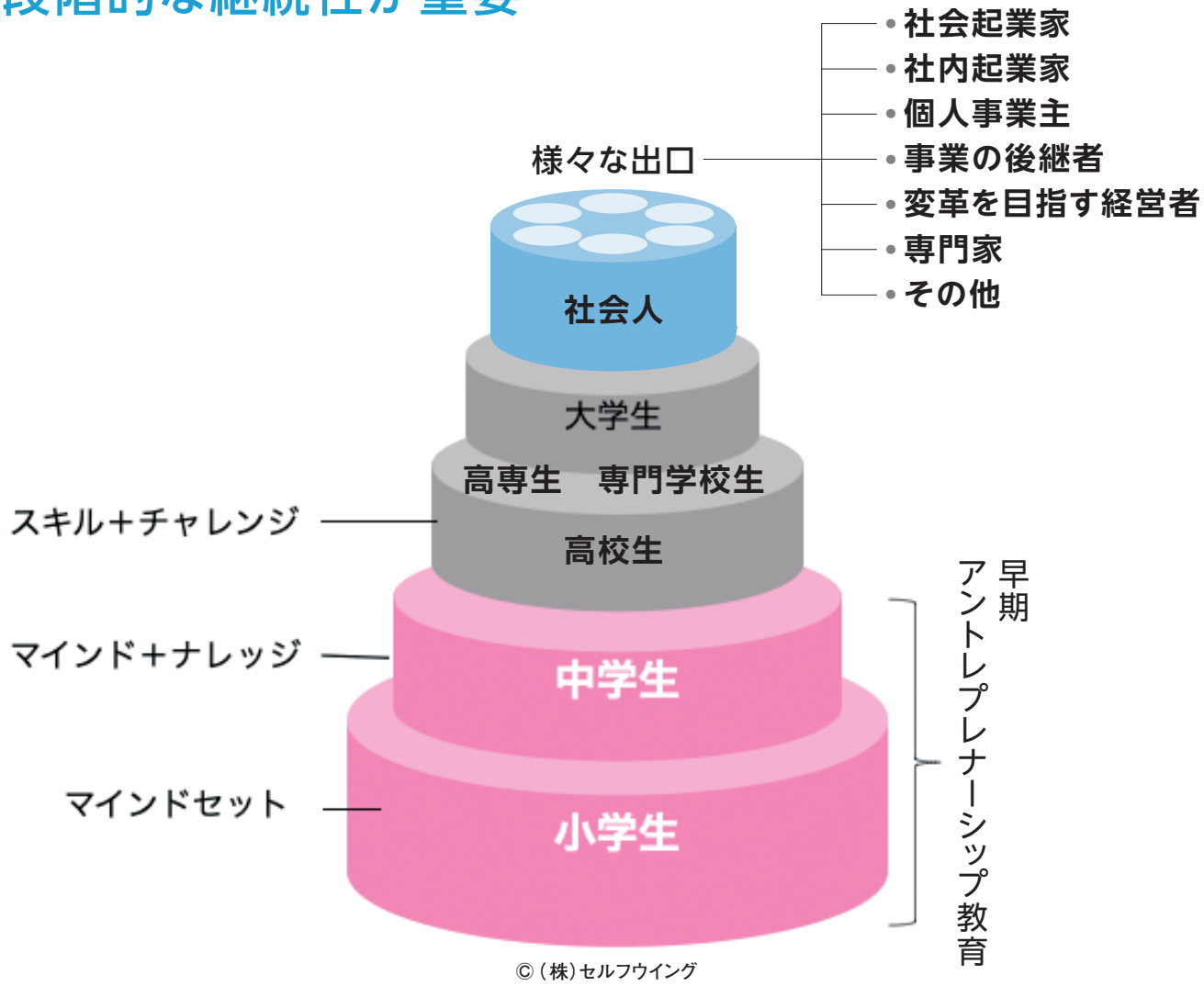
「第４期教育振興基本計画」において、社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）を備えた人材を創出する教育を、あらゆる学校段階で推進していくことが明記されています。出典：文部科学省「第4期教育振興基本計画（令和5年度～9年度）」

アントレプレナーシップ教育は児童・生徒の「非認知能力」を高める

アントレプレナーシップ教育を通じて、以下のような力を涵養することが期待できます。

1　自分で考えて、自分で行動できる
2　新しいことを自分で考えることができる発想力をもつ
3　失敗を恐れず、新しいことにチャレンジできる
4　自分の考えをしっかりと伝えることができる

小・中学生でベースをつくり
段階的な継続性が重要



アントレプレナーシップ教育は、継続が非常に大切です。小・中学生において、そのベース、土台を作ることにより、キャリアの選択肢として起業を含む様々な出口を考えることができることを目的としています。

今後、産業構造の変化が加速するなかで、「新たに仕事・産業を生み出す力」は不可欠であると考えます。早期からアントレプレナーシップ教育を実施することで、選択肢としての起業を目指す人材の裾野を広げることができます。そして、高校生以上での継続した専門・キャリア教育により、「起業」をひとつの選択肢にするというような流れをつくることができるでしょう。

継続してアントレプレナーシップ教育を積み上げていくことで、体系的にアントレプレナーシップを身につけることができます。小学生の間は、物事の見方や考え方に影響を与えることができればいいでしょう。中学生になれば起業自体に関する一定の知識とマインドについて学ぶことができ、高校生になるとより実践的なスキルやチャレンジ精神を身につけ、インターンシップなど他組織での活動に従事できるようにもなります。

なぜ、「普及型」のプログラムに「会社をつくる」というプロセスを使うのか

本ガイドブックで紹介するプログラムは、公教育や地域での導入を目的に「普及」と「継続」を重視しています。
児童・生徒にとって身近である「会社」という例を使い、そのプロセスから得られる学び・学習目標を「学科との紐付け」と「不確実性への対応力」などに分析・分類し、「知識の教育」と「生きる力」の双方を学習目標としています。
本資料では、一例として身近な存在である「会社」という機能をメソッド化したプログラムを紹介します。もちろん「会社」の機能を使ったプログラムであることがアントレプレナーシップ教育の条件ではありませんが、アントレプレナーシップを身につけるために、知識とマインドの両方をしっかりと組み込むことを企図したプログラムにしています。

プログラムのプロセスと教育内容

プロセス	期待される学習効果	関連科目
起業家の話を聞く	話を聞いて理解する・社会とのつながりを意識する	国語・社会など
会社をつくる（役割を決める）	自分と仲間の得意なことを理解する	社会など
市場調査する	好奇心の喚起、 課題発見力・情報処理能力をあげる	国語・社会など
計画を立てる（商品を企画する）	アイデア・発想力を磨く	生活など
計画を立てる（事業計画を作成する）	論理的思考力・計算能力の向上	算数など
資金を集める	プレゼンテーション能力をつける	国語など
材料を仕入れる	コスト意識を身につける	算数など
商品を製造する	チームワークで知恵をだし付加価値をつける・時間の管理能力をあげる	技術・図画工作など
宣伝をする	情報発信能力を高める	国語など
販売の準備をする	段取りをする力をつける	社会・家庭など
販売する	商品を最後まで売り切ることで、 責任感を養う	家庭など
決算をする	損益に対する理解力を高める、 細かい作業の大切さを知る	算数など
融資を返済する	約束を守る事の大切さを知る	道徳など
振り返りをする	結果を把握して、 改善につなげる思考を身につける	国語・社会など

©（株）セルフウイング

本プログラムは、左ページの表のようなプロセスで行います。児童・生徒自身が課題を作り出す、もしくは課題が設定されたとしても、その中から必要なものは何かということを調査等を通じて、児童・生徒自身が能動的に発見していきます。そして、課題に必要な作業を自らが見つけ、いろいろな方法を試さなければなりません。それにより仮説を立てる力、検証する力が身につきます。プログラムでは、自分たちが売れると思った商品・サービスを企画・製作します。ただし、実際の売買活動では、欲しい材料が手に入らないなど思い通りにならないことにぶつかるでしょう。そのような不確実性を検証し、活動を進めていきます。売り買いが大事なわけではありません。次にやるにはどうしたらいいのか、思った通りにいかないときにはどのような対応をしたらいいかといったことを常に考え、いろいろな学びができるプログラムになっています。

本ガイドブックで紹介する
アントレプレナーシップ教育プログラムの基本方針

①「失敗」から学び、あきめない力を身につける

本プログラムは、良い失敗を経験してもらえるように構成されています。児童・生徒は失敗をしたあと、その経験を生かし、次に成功することで大きな自信を得るでしょう。教えない、手伝わないことで、児童・生徒は最初は失敗しますが、「失敗から自分で学ぶこと」こそ、とても貴重な経験です。

②自分の努力の結果を「数字」で理解できる

プログラムの結果・成果を「数字」を使うことで、自分たちの努力によって生み出した「付加価値」などを客観評価することができます。大人の主観や価値観で評価されるのではなく自分たちの頑張りを数値化、可視化しやすくなります。それにより、活動の振り返り、分析を深めます。

③会社の中にはたくさんの役割があることを知る

会社の中にはたくさんの役割があります。社長だけでは会社は成り立ちません。自分の得意なこと、そして他のメンバーが得意なことを見つけることによって、自分に自信をもつ、お互いに尊重する気持ちを身につけてもらいます。そのために、本プログラムでは、それぞれが役職に就き、活躍できる流れになっています。

④家族や仕事への理解を深める

本プログラムは、大学生や院生・社会人も学んでいるアントレプレナーシップ教育と同様のメソッドを使っています。大人と同じ活動を経験することで、何のために勉強したり、頑張るのかといったことの理解を促すことが重要です。難しいことがあっても、「大人と同じことをやっているから、大人でも難しいことだよ」と励ますことによって児童・生徒のプライドを守れます。また、「家族の方も同じように仕事を頑張ってるよ」と伝えることで、感謝の気持ちをもつようになります。

⑤チームワークで良い結果が出せることを自覚する

本プログラムでは、チームワークを非常に大切にしています。チームで活動することで、それぞれが得意とする部分を出し合い、意見やアイデアを共有することで、課題に対してのより創造的なアプローチができるようになります。また、困難を乗り切り、最後までやりきる力が身につきます。